

府高教ニュース速報No.4. (10月19日付) 資料

教育委員会会議資料より

■対象校の選定理由

工科高校の改編

- ・ 「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画（2019（平成 31）年度から 2023 年度）」に基づき、本年度は、3つの重点化タイプ（高大連携重点型、実践的技能養成重点型、地域産業連携重点型）から各1校を選び、次の3校の改編に着手する。
- ・ 淀川工科高校は、高大連携重点型校として工学系大学進学専科を設置し、機械、電気のほかメカトロニクス系を設置している学校である。同校においては、大学進学専科を中心に大学と連携し、実技と理論を併せもった工学のスペシャリストの育成を行ってきた。
 今後は、AIの活用で必要となるIT技術やデータサイエンス技術について、大学の情報工学分野との連携を図るとともに、技術英語の学習も取り入れるなど、AI時代のエンジニア育成に向けた取組みを一層発展させることとする。
- ・ 堺工科高校は、実践的技能養成重点型校として、機械、電気、環境化学システム系を設置している学校である。同校においては、堺市と連携した水質調査・分析、太陽光発電等、環境をキーワードとした取組みや、堺の地場産業である打ち刃物等の製造技術の学習を通じ、地元産業への理解を深める取組みを行ってきた。
 今後は、環境課題を解決する装置の開発やクリーンエネルギー等の研究を通じた専門技術等を習得する取組み、地元産業を支える人材を育成する取組みを一層発展させることとする。
- ・ 布施工科高校は、地域産業連携重点型校として、機械、電気、建築設備系を設置している学校である。同校においては、地元企業との連携により2学年全員が参加するインターンシップを実施し、企業技術者の直接指導による実践力向上の取組みを行ってきた。
 今後は、長期の企業実習であるデュアルシステム（※）を導入するなど、学校と企業等が連携し、エンジニアとして求められる実践的な知識や技能、社会人基礎力等の向上を図り、地域のものづくりを支える人材を育成する取組みを一層発展させることとする。

※デュアルシステム：長期の企業実習を通じて、実際の・実践的な職業知識や技術・技能を習得し、生徒の資質・能力を伸長するとともに勤労観・職業観をより一層深めることなどを目的とする。

(参考)

「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画（2019（平成 31）年度から 2023 年度）」における工科高校のさらなる魅力づくり（概要）

各校が持つものづくり教育の強みを際立たせるとともに、実践力と技術の進展に対応できる力を身に付けさせるためのきめ細かな指導の実現、大学や企業等との連携の深化等に向けた取組みを進める。

○学校規模は、原則として1学年6学級35人編制とする。

○ものづくり教育の特色化

- ・ 技術の高度化・融合化への対応
- ・ 実社会に密着したテーマを題材にした専門学習の推進
- ・ 技術者から学ぶ機会、現場体験実習の充実
- ・ インターンシップの充実を図るとともに、デュアルシステムの実施を検討する。
- ・ PBLの導入